

小精廬日誌

昭和十四年  
一月廿六日

特別

14

1919

634

35

40

45

50



小精廬日記

昭和十四年一月以降

一月元旦

西雅三年日のちまを  
 迎ふ。飛武天皇紀元也  
 西九十七年  
 のこと。西曆十九百三十九年  
 西元也。西七十二年  
 大正元年。西二十八年  
 也。余こと一八拾歳。四年の  
 去人多く。昨年来已  
 別予侯侍と云ふべし。元旦  
 例。徳り快晴なり。山  
 霧降の疾患おどし。病  
 奪り。左り。君千の外  
 利。大江乙良。氣あふ。あ  
 しく。云え。七唐し。半り



と清く生田七の玉置位をもちて夜に入り西に  
行可く火出火午後氣分漸く快此年の日誌末  
に起居摘要を著す本年執事の始めとす終日寝  
室に在り

二日

昨朝例の如く解を吟み朝来筆に就み此年の  
日誌末に起居摘要を著し畢す政上も代診来り注  
射と罷して去る政口献吉今日の事来り午後  
飯後を人らあり書院に去り米色大晦日家用拂内子

榎原表

主計の金五十四文白、金二百八十四文書込三代金廿四  
文あり 支店振置貯金として預け入るる由也文の  
貯金三箇の銀りとも休業より預入するが如く  
三印の文化以の如く休書区工番付履先と書  
せしめたる所内松の両行き並ねるるが如く  
多内へ寄す

三日

元始祭

晴終日厚中より立り難涼と覺へるあり二宮  
芝院より過りて芝の澤菜を踏み、身は



和蘭川打上の福壽神祀も、余が八十を越る陰災  
の祈禱もするも、却て存を害する事あり。昔より長々の病を  
こく、此毒に向切候と感ず。是れ浦借いふ小將司  
咳嗽と銘するも

四日

今朝雪あり少時、しこむ。病の甚むる便秘を能解  
く、兎も後ともむこく、一々發熱を刺す。又、昔年平  
の煙草と兵隊を漬りたす那ゆると近衛内閣は辭職  
を報す、王泥祀否、後任首事、いんとす、一々此

榎原製

行休業に入金を得たり。余の積金二百八十四日、若何  
安田半込支店、充分ら四七日行、日助、慶入、と長  
四事、十日交付、午後注射、返り、多く、偶大徳長  
田中穂積、養殖物、送取、推さす、深田、平沢、把府、議  
去、宮中、二、百、さん、但、園、の、大、令、中、を、拜、す

五日

天氣陰鬱、と氣、以、細、雨、云、近、又、一時、の、う、じ、才、と、大  
政、顔、振、決、し、と、報、道、す、ん、留、任、あ、ま、り、多、く、石、河  
大、危、次、元、花、ね、と、異、任、し、永、井、加、留、任、す、所、同、次



政務勤心者存存臣と混(き)こ(と)ま(し)近衛前首相  
無任所大臣として入閣(し)ること(も)の特(と)注意(を)ま(さ)す  
を本(に)中(に)ま(し)全部任命(を)見(え)る(に)せ(ら)れ(り)て(あ)る  
主任大臣(と)して生(れ)れ(り)の文(を)納(め)る(に)始(り)る(に)大江  
と(り)不(た)の(と)見(え)る(に)重(重)極(に)か(ら)ず(に)未(だ)に(は)下  
山(に)回(り)て(は)任(命)せ(ら)れ(り)近衛(に)分(か)る(に)任(命)せ(ら)れ(り)  
任(命)せ(ら)れ(り)無(任)所(に)大臣(と)して(は)今(に)夜(に)咳(を)漸(に)か(ら)ず(に)時(時)  
に(は)妨(が)り(に)ま(し)る(に)い(く)む(に)あ(ら)ず(に)得(な)す

七日

藤原製

晴、紅葉の陸合(と)ま(し)ま(し)田(に)下(に)植(を)植(え)る(に)し(る)に  
上(に)の(に)前(に)合(を)新(に)島(に)出(で)る(に)切(を)餅(を)一(を)番(を)と(り)給(に)  
り(ま)す(に)難(に)保(を)と(り)ま(し)十二(に)時(に)迄(に)て(は)元(に)行(を)概(に)大(に)倉(に)屋  
上(に)と(り)て(は)午後(に)十日(に)日(に)入(を)浴(を)浴(を)後(に)注(を)射(を)と(り)受(を)く(に)新(に)島(に)栗  
林(に)娘(に)物(に)集(を)り(て)訪(を)相(を)と(り)給(に)ま(し)る(に)●(を)真(に)入(を)り(て)山(に)実(を)と(り)給(に)成(を)業(を)  
ま(し)ま(し)る(に)か(ら)今(に)夜(に)平(に)穩(に)睡(を)眠(を)成(を)と(り)得(に)

七日

晴、全(に)晴(を)こ(と)ま(し)ま(し)る(に)床(を)拂(を)山(に)田(に)法(を)作(を)り(て)法(を)難  
報(を)を(り)時(を)移(を)る(に)身(を)一(を)行(を)支(を)店(を)預(を)金(を)百(を)五











七行書、國技飯今りと申候

十三日

頃、落田より取寄るの仕度、俵桶裏に詰めしものを焚き、  
これより余の切った酒料のメモを作り時を費す、十日  
と走を伴うる程に、物をばい出さるゝ酒飲も七割ぐ  
医目より例の注射を絶す、余の投料を止め、  
協合死法并、死法抄、  
み又刺やむ

榎原製

十四日

頃一月以下時夫つゝも乾燥に固む、  
と居しと云始を試む、山田少心、  
亦何法三、  
多、郵送、  
揮毫、  
江、  
毫

十五日

日



晴、江戸橋本の巻頭を草大、注射はもう例の注  
射とさき、由名をさし、始末、安永朝のさし、地心  
中の係をさし、全の批評をさし、新報を  
す午後、地心玉、注大、中係を後、大田雪松日  
計刊、常勝の収景、横谷、

十六日

晴、生田七、中係、押、五、を、交、付、三、三、の、下  
物を終、さ、さ、の、百、注、し、を、さ、尾、世、三、時、さ、さ、  
注、出、川、注、交、注、の、さ、注、金、ら、白、り、出、ま、

榎原製

大田雪松死去、この日、中係をさし、児、注、注、  
大、中、係、を、後、さ、五、時、注、景、破、の、時、令、注、  
さ、今、さ、さ、の、田、中、増、四、と、余、さ、前、島、の、新、威、松  
島、注、四、中、の、急、死、を、さ、さ、さ、注、治、ま、物、を、送、  
る

十七日

晴、龜山、さ、この日、山陽書幅、さ、運、注射  
医、者、例、の、注射、を、交、さ、物、注、鉦、四、中、死、云、  
二、竹、吊、状、を、さ、さ、す、事、危、弘、来、の、押、景、の、



看取二枚交付、編田貞敬と来去午時終迄  
二枚束中より書すの旨、由書後高相日の爲に  
年一見上源天ら、伯信の批評と書す、未定か  
く、早大教授高橋の書すの計列す、高橋の書すの

十八日

晴朝来高橋を方きつぎ高相の二枚交、高田貞敬  
より高相の書すの旨、伯信の批評と書す、未定か  
く、早大教授高橋の書すの計列す、高橋の書すの  
り看すく白堆をうす、見玉信を讀了時と移す、

榎原製

十九日

昨夜雪高んて、天氣雨く、つらう、冊是の編田貞  
簡す、又高橋の書すの旨、伯信の批評と書す、未定か  
く、早大教授高橋の書すの計列す、高橋の書すの  
り看すく白堆をうす、見玉信を讀了時と移す、  
江ノ橋本の巻頭言を著す、山田伯信の書すの  
送す、高橋の書すの旨、伯信の批評と書す、未定か  
く、早大教授高橋の書すの計列す、高橋の書すの  
り看すく白堆をうす、見玉信を讀了時と移す、  
注射と云く、高相の書すの旨、伯信の批評と書す、未定か  
く、早大教授高橋の書すの計列す、高橋の書すの











午後一時少し前地震あり。以界往来々々余の字の如く  
需りしもの永井清々葉子と云ふことあり

二十五日

晴細未難紙と養育一冊の中納付と交りて四税  
附加税も総額九十二圓八十錢外に電信料  
十九圓零於二錢也。以海巡査より洋花と贈る書  
高麗花に満ち春の心地と云ふ句の注釈と云々  
第七枚書き了る。余の投稿と收めぬ字燈の場  
列

榎原製

二十六日

晴山田信心耳の複製本二冊配本八金四角の表一  
録り預金引出し、形名の三福酒飲ま随筆  
一冊命政界往来紙二冊あり、又春春秋社も稿  
料十圓刊来、勸業録りも送付通に刊  
諸税納付金別百圓電信料代安の附書  
月分金六十四圓四角五分交付

二十七日

晴朝東陽筆名札一枚よのよと書き畢る午後



例の注射と受く、軍隊顧問ありし七十五圓可合  
：寄附金より田家用拂ゆ子、文付名七五圓  
より未出

二十八日

早朝坂口献出ありしと出金月毎未月の春城人ありし  
注成打合をとりて三三日月振に理帳、金二万圓  
才一紙の預金引出し家用を充つ、午時始生  
：散策、資生堂に飯す、午後旅程を著す、九  
葉とて投箱謝金三十圓引未

櫻原製

二十九日

日

晴朝来難波と筆す、注射を受く例の如し、村山秋  
浦の囀、春田町、長笑山あり巨橋の運向、是書  
す、午後鹿島香取湖池の筆あり、始電、各金  
より止む加賀、三三日月振に理帳、金二万圓  
：寄附金より田家用拂ゆ子、文付名七五圓  
より未出

三十日

晴朝来、山崎遊記を書きつゝ、各我の大島



三十一日 高田博士様よりきこま候。十一時佳んじ  
丸じんに物を贈ひ申上り候。七時入る。金五十四  
家用由あり交付。加賀守三郎に参り、家刻家書  
名紙、城元田井天来の部をさく、馬場達部と  
来上

三十一日

頃朝食後、腰に疼痛を感る。神経痛  
へ無任の爲め、特に得法なく、寢所に入り、  
臥床し、来上りも、未だ注射等の手段を施さ

す。と止む。終日疼痛を苦む。

二月

一日

昨、高田守教来り、新田様あり。高田様来  
来上り三郎一段に献上。内々候。昨三郎一廿可  
来上。疾痛等の如く、坂上の代診来り注射  
を施す

二日



注射を多くし且つ尿の検査を為し、異状を認め  
女子と来也。區吏に回税滞税を交付、炭費を充  
出、山陽と京波と題するパンフレットを寄せて來  
る。ああ、終日神経痛を困む。食欲不振、  
病次後喫烟と酒を絶つ

三日

時、病状前日の如く、身体の苦措自由ならず、注射の  
効を見ず、下劑を服す。注射を多くし、例の如く、  
矢友人の電道危馬の報あり

横原製

四日

時、病状前日の如く、注射を續すぐも効有し、村山  
亀齡も来玉、受苔の書付去、田久兵衛の訃訃、新  
澤田源次物語を讀む、妻も同症を覺し、終日  
困む、夜に入り例の如く追儼を行ふ

五日

時、今朝より朝合あのオート、ふしんを用ひ、注射例の  
如く患部にエキホスを貼る、公今中、故り、首末文相  
等の日本新神と関する漢字を多く、前田医説



の三中山を捉き、病に付き協張、春城合ふべき、改口献表  
より未也、今夜雪あり、

六日

晴、方急流を、出ふ可なり、故打の請准の道若儀  
後人物辞要出版につき、余は序と法を、亦松本ま音  
一、江原より、紙後書本但合中、の原稿を讀む、大江  
乙亥の次男結婚披露の案内状、廿三日又士  
令既、丹兵衛二三式より来む、余々の限り注釈  
と二巻と是と決し、既而、之と告ぐ、蓋し是、是、

榎原製

一、用弓注射寸功を覚えて、かた也、工キホスと去り、全  
身は清拭浴のあり

七日

晴、早大を、近刊国書館和漢書目録(卷術部)到来  
東京朝の早大、校務録金二十五圓、到来、大石  
西田博士より、早大、来す、池田公打の、為め紀念法  
要を、早大、と、朝、松本、一、尺、舞、は、ま、り  
石原、早大の、注釈、薬を、用へ、る、初、は、保、上、弘、氏  
自身、来り、松本、と、對、顔、し、ま、り、お、せ、ら、ま、り、芝、居、ま、り



坂上病後初めの然診るも切に注射の持続を云ふ其  
意に従ふ。妻の病もよくいづれ、春後平不足の  
意を極しつゝ来り春後を司ふ。と山港勝、稗言家  
二何れもを辨て大むの論絶来り。七石の言持来天  
し来出春後をいし金の押其月画殿利来

八日

時、在支小山愛司と自著、和漢温三合易注二冊  
七石の坂上弘お昨日の自著、注診注射と死し具  
血をう検査もする、百七十度と報る代筆、と名

棟原製

つて坂口、病状と報り十七日の春減分と運分志き  
を中述す

九日

昨夜一晩の預食る五十四外むし家用、供其  
落合分深税三十四納付、氏流也查花を診る  
来り、兵衛西田診言、代筆の虫物を養え大注  
七夜来迄、海の家をいし洋衣を給ふ、例の如く  
注射と受人も患部、直毛右影細言、臥床  
既、日向日、及ぶ



十日

晴、少の強風、今朝望、甲、海南、冷を、奇、熱心、上、陸  
を、敷、下、寺、冷、元、重、又、各、三、未、の、下、劑、を、服、す、茶、あ  
新、大、中、身、功、洋、花、の、金、裁、を、贈、り、今、日、注射、を、休  
む、海南、の、首、都、攻、略、の、報、計、の

十一日

紀之節

晴、尚、病、床、又、あ、り、本、日、注射、を、痛、し、酒、の、温、布  
を、妻、部、に、施、し、長、心、の、つ、か、し、じ、を、行、六、床、上、今、日  
の、運、回、祭、の、状、況、を、う、じ、ま、る、も、聴、く、日、清、士、今、日、結、合

稗原製

通、和、利、の、指、村、免、り、と、ま、出、勤、業、場、の、事、業、  
告、書、刊、の

十二日

日

晴、在、朝、輝、贊、回、直、法、爾、太、中、を、来、志、全、の  
巻、頭、言、と、収、め、る、江、戸、浪、本、出、し、廿、日、旅、法  
規、條、を、あ、り、七、注、射、を、あ、り、遺、布、と、し、つ、か、し、  
日、清、と、ま、り、あ、り、夜、未、六、角、才、一、部、り、移、り、の、定  
如、一、第、の、預、金、今、日、期、此、免、り、休、り、又、ま、  
明日、交、理、す、り、す、



十三日

明<sup>佳</sup>銀行一萬圓定期存款昨日期限二ヶ月  
更新六月繼續の手續を了し、利率は六割高に  
預金に八割増の利息を二倍増の利率に  
状を了(三月五日青田ホテ)鈴木嘉道書道  
の運を案ありし、菓子を買ひ、午後薩摩  
今日余の内子も患部の疼痛先行緩和を  
免れ、和らぎ、翌朝吉田秀人とも吉田本峰書道  
賣り、三月五日、十六日、和葉、夜、夜合  
出席あり、高床、就て、二週、り、り

理原

十四日

今日の天気陰鬱、可哀なり、高床に去り  
来出、淀橋区吏、急合分租税未納金二十  
八圓、小切手、納付、今日の泉油泥、共七金合  
一致、古物、北條、池、等、同、リ、聯、の、異、状、と、  
仮、務、事、可、と、と、政府、日、と、報、捷、た、り、り、速、激、を  
多、終、日、辱、中、大、泉、山、泥、を、浸、ち

十五日

拂曉より六時頃迄、十時以三寸許降りつゝ



坂口献吉出京見おの世来り、十一月の儘今つき田  
中増田のえつき到来、正午雪霽り、近刊書法を  
讀む、橋守部手自筆遺存書之目録未だ未だ  
天教し雪霽り、のち夕刻に云りて、二通り癢  
し、喫煙を續し、本工の與聊を慰む、息度し余  
の養生を福も、酒酒松竹梅と銘し、初雪一杯を  
飲む。

十一月六日

時、病状依然あり、為日夕散と為床、延き故也

時、就て思ひ出を治し、華あやむ、藤田録出  
し、未だ又江乙亥つゝ、えお、勢印、走田小夏  
より、洋花を治し、大泉小宛を治し、時を費  
まを、夜に、あ、時、今、あ、も、缺席、金十五  
田内子、交付、家用を希し。

十七日

時、多し、余、八、十、回、の、延、辰、き、去、月、を、隠、め  
お、を、祝、す、春、城、守、科、甚、き、し、神、往、痛  
し、中止し、三、内、子、無、人、と、し、今、あ、瘡、入



す。右候の一風色開り多し。本白雲  
より未出。又又篠田鑄造に奉り。赤一  
段の鑄金。田引出す。ゆふの、あひ特蓄。振  
置。鑄金。今日満期につき。更に。結。續。日。午後。より  
ふ。大。江。乙。六。姑。婿。の。つ。き。祝。品。穀。子。十。四。粒  
ふ。女。不。大。多。く。納。付。金。二。十。目。先。に。交。付。以。外  
田。高。安。く。餅。米。一。斗。五。升。注。文。半。後。神。楽。及  
の。針。道。神。田。集。を。迎。へ。て。患。部。又。八。針。を。考。へ  
針。煮。へ。白。分。生。紙。の。初。め。し。の。匠。験。を。う。ま。い。り  
灸。点。を。施。す。大。坂。の。井。浩。二。より。未。出。余。の。文

を収録。中々敷科書。形。割。田。紙。文。部。有  
換。空。海。を。終。之。候。と。全。部。十。冊。終。了。す。

十八日

晴。朝。来。天。氣。朗。々。温。暖。氣。分。一。清。水。春。一。出。意  
幅。の。懸。運。も。少。し。候。り。の。ま。く。中。也。に。三。日。に。一。日。か  
田。紙。の。形。額。押。ま。を。書。の。年。子。三。日。由。後。甲。午。田。村  
壯。次。郎。文。部。御。存。の。件。の。ま。く。集。の。函。心。す。し。も。通。す。  
陰。田。崎。士。の。時。多。論。入。と。後。に。大。江。乙。六。の。特。蓄。田。紙  
送。り。す。ま。出。半。後。餅。米。一。斗。五。升。注。文。半。後。神。楽。及







睡三時以迄も白く

二十一日

昨夕果の肴今朝雪をまき、お金の宇尾地際見え  
と来り昔果物も贈り、病室へ運り込め何れ道  
遠なる挨拶を少り、茶の杯大仰の生お式  
代人と来り午後續談自來り沈座を二又と鑑  
定を囑り入り山陽出極二點高き二長  
べに起り進海の理髪の元舞又来り其後  
剃りくんと何れ髪を剃るの初め也上河祖

田舎

異に於て親日派の支那有力者暗殺さるるも其派の  
あり、その又お茶の章の孫を同本暗殺さるるも其  
り雪後終りぬる、二徳の増税あるも、越上りぬる

二十二日

昨、大にしるす、高し、高と力を山陽出極の二  
個り起り、人の害の、故、文三の三年忘るむ  
一よと配り、果の昔典の、午後灌腸便紙  
を解く後、餅米一斗、五升、利達



二十三日

昨、鍼灸効あり、枕高、痛軽快、但、リウマチ、  
終、あり、其、考、為、或、何、疼痛、あり、を、二、三、日、経、  
た、拂、ふ、こと、を得、べき、歎、ふ、如、く、鴨、の、を、  
氣、漸、やく、揮、ふ、大江、と、も、未、出、二、三、日、時、  
論、談、を、流、る、時、を、あ、り、し、内、子、の、枕、高、痛、  
に、向、ふ、中、心、に、三、日、と、未、出、午後、讀、み、中、午、睡、一、時、  
多、く、銀、鬚、未、多、

二十四日

漢原抄

昨、今朝、と、離、床、の、為、室、に、あ、り、未、却、便、利、を、  
こ、も、復、考、本、五、日、條、殿、消息、一、冊、配、本、五、月、廿、  
日、谷、美、の、り、孫、の、法、婚、式、に、祝、え、ん、と、も、一、考、  
出、席、あ、り、し、遊、玩、を、著、し、山、田、清、心、耳、振、  
又、平、山、香、の、り、勝、平、山、湯、言、傳、の、真、書、  
定、を、請、い、未、出、高、原、流、去、り、と、未、出、午後、鍼、  
灸、と、受、く、龍、原、殿、日、尊、と、未、出、流、去、り、  
嫁、し、り、流、去、り、又、其、の、り、高、原、山、湯、の、り、  
了、復、考、本、五、日、條、殿、消息、一、冊、配、本



二十一日

噴床と離れて、高田半峰傍の材料調を  
し、モを心る。六時半十三日白木を足成拂  
内子：交代、午後坂上：托一家族の種痘を  
する。村山来と二枚抄屏風代、四玉の法、真淵契  
沖二點引、取脂色のりうて未食くす山坐、  
る、うらみりの机、悲の、夜、入、微、而、風、噪、か、し

二十二日

噴、高、田、の、と、敷、事、を、高、田、を、と、す、の、は、略、の、と、す、

榎原製

と、高、田、の、十、二、時、の、と、す、が、高、田、の、子、漢、腸、を、使、役、を、  
解、き、た、と、す、の、と、す、初、め、は、白、紙、の、使、役、と、す、午、後、雜  
録、を、著、し、ま、又、早、大、移、接、の、記、録、を、讀、む、大、江、と  
高、田、の、次、男、の、結、婚、式、の、元、を、臨、席、と、す、と、す、の、と、す、  
座、と、す、と、す、今、後、高、田、子、を、見、て、更、に、誠、意、と、す、  
こ、と、し、し、み、あ、と、す、り、高、田、の、年、長、屋、の、為、り、未  
り、高、田、の、重、福、し、づ、と、高、田、と、す、丹、兵、衛、原、亦、出  
を、報、し、来、る、

二十七日



時宇尾河遊しと来去才一泊り夜金三ちり因り  
生軍用ニ充つ金三十日充の飲金と其山丹吳柳平  
月酒午飯と其山と別り七夜先と一冊其先  
才と其山の山と招き晩合を供する也中央公  
論の松下英彦目功、早稲田の沼澤と池田  
風と執筆一くんと依頼を二文く来浪者も吠せ  
刻山崎東天龍原殿日考、酒と今夜晩合は初  
め一合の酒を飲し

二十八日

棟原

時初来報知と著す、ソ生生命保険合社  
一刻の配当金列来、其の二宮慶派と来出午  
時大改の舞友平田謙衛目功、其の山崎の  
後、高松沈喜、餅屋代郵送、二宮、酒と  
叔村崎踏雄の遺著、其の山崎、其の山崎、其の山崎  
序文を著す、初稿成、高松、其の山崎、其の山崎  
高松(前未回大使)米、其の山崎、其の山崎、其の山崎

三月

一日

時前月全世病中、其の山崎、其の山崎、其の山崎







時、無聊に地を朝来龍叔と著しし事を受  
て、本山上定より自轄地を公遣り果集、その方  
と山ありて、高取次をとも未出、米四石を命  
取後故大使の遣りて巡洋艦にて送ると、外務  
省以外務省事務を行ふと云ふ、所乃、川崎  
の依頼し、おまゝの遣りて、起運し、其  
夫、夜未あり、木炭二俵と箱六、

四日

而後時、稿各屋六、四、中、巻各と子息三、即、人、法

棟原製

り、目今洋紙と改名の旗抄、杖、朱、西、田、海、堂、三、相  
其、と、新、法、ま、平、山、若、く、書、道、産、器、日、紙、(暖、煎)  
村、在、路、花、道、と、宗、て、身、大、室、室、海、州、と、占、領、ま、北、の、占  
領、の、標、の、敵、の、長、期、お、致、す、戦、術、の、備、の、長、義、重、大、也

五日

時、龜山、有、三、月、う、山、陽、考、稿、二、三、の、若、と、と、海、山、直  
ち、の、考、と、と、と、北、原、程、忠、目、の、二、三、校、友、と、紙、外  
才、品、目、一、と、と、と、元、の、品、を、贈、り、来、る、山、林、望、三、年、次  
中、央、公、論、と、と、と、紙、を、え、と、と、早、六、の、回、領、十、枚、は、り



筆化す、秋原美一の贈儀、祝宴に先をせす、

六日

時余の執筆の傍に宿利重一君の宛書は、  
の批評今朝の事、朝日後に概に描き、  
若岩尚礼に未だ朝来早大回廊の  
筆一十枚成る、丹兵衛平と未だ、  
美の中央今も全の押毫を需むる、  
枚刺速、●五、●押毫郵送、  
鑑より原三三、  
起、入り、  
四、  
世、

標原製

七日

而朝来早大回廊の行と筆一十枚  
創業記成る、方角次吉丹兵衛平と未  
玉休旅、  
三、  
部、  
早、  
大、  
出、  
版、  
部、  
と、  
別、  
表、  
午、  
後、  
大、  
郷、  
池、  
記、  
筆、  
作、  
し、  
り、  
と、  
川、  
崎、  
末、  
吉、  
と、  
海、  
山、  
別、  
の、

八日

時、  
早、  
大、  
回、  
廊、  
の、  
一、  
君、  
と、  
後、  
と、  
中、  
央、  
公、  
論、  
地、  
に、  
投、  
書、  
一、  
紙、  
の、  
預、  
金、  
を、  
引、  
出、  
す、  
為、  
の、  
為、  
に、  
家、  
事、



奉後よりと来振、大花有現狀局とと来出、金五并、  
瘡品責印の新汚状也、坂田誠とと来出、宮中、新皇  
正清命名式とと、清宮皇子と清命名書とと、昂  
病也

九日

以清相来雜報を著す、出版部、東清、  
出版部株後の協定書、印刷を需め、  
二の来稿と、村山秋浦、  
古木金花、三相列来、西田清去、来出

横濱

田稅法稅激案到、中央公論社とと来出、  
三時、地震あり

十日

市、市立甲記念也、市内防空演習を行、坂口献  
夫、  
淡と、高島次、  
房中、見、  
来、  
を、  
村上、



世より、古田老人を以て結婚披露に招く（四月）  
其の翌日右社を奉納、夜来る

十一日

前記の如く、中谷宇吉郎、雪江龍一の科学的研  
究を讀む、不意あふ、各處を普す、午後龍一と  
筆、夕終の雨やま、早大監寺名取夏司の訃刊の  
訃あり、未公。

榎原製

十二日

日

晴、名取夏司死去の事、早大に集  
四十日目に於て、日本橋迄、此物と銘の古山尾公を以  
て、領し七切、午後半世の早大の講、午のとき、不日  
中央公論の講、一稿を作る、未公也。

十三日

晴、病後以来四十日、毎朝、早大に集、早大に集、  
一稿を以て、早大に集、早大に集、早大に集、  
べき早大に集、早大に集、早大に集、早大に集、







十六日

咳、紅海の世話も有難ゆ、早大の病人と銘起  
下リ、ロコを喫す、九時半、河合井野博士を付い未  
リ診察、手當りのき、病般を打合す、病態ハ肝氣  
腫、め、めん、お分の肝内、鉄、お、を補ふ、水、注  
射、を為す、塩、を、二三、回、松、野、徳、友、を、去、り、ん、き、  
吊、針、を、な、す、ゆ、子、舟、渡、の、係、り、早、大、回、診、の、傍、り、  
五、六、枚、筆、他、之、を、な、す、社、と、お、を、贈、り、未、だ、五、時  
六、時、の、出、に、到、り、腫、合、に、臨、む、夜、を、今、う、徹、夜、の、

榎原製

十七日

咳、午、三、時、獨、上、を、失、い、獨、逸、に、併、合、せ、る、病、人、の、夜、未、往、  
に、お、り、想、七、と、ま、ま、講、談、社、雜、誌、現、代、を、も、投、打、を、も、と  
め、来、り、早、大、回、診、の、稿、を、書、き、つ、け、六、七、枚、成、り、海  
野、道、子、の、珍、時、の、来、り、病、況、可、多、と、報、す、カン、フ、ス、ル、注  
射、を、施、す、休、み、澄、可、の、夜、よ、入、り、清、野、身、珍、心、腸、  
保、生、の、為、に、注射、を、施、し、て、去、り、

十八日

咳、早、大、の、稿、早、大、決、算、出、到、来、中、央、公、論、の、松、下















里島に三ヶ工を未だ書信の南東を往りし

二十七日

晴相来中央山嶺より早大の回顧の候去日  
友人より為向之方へ果物を贈りし新島田成文を  
手紙作人名前出の見本指列来、午後隨筆の稿  
を終め時を費す、早大より沼津へ戻るの候果を  
報し来り

二十八日

榎原製

晴川合庵大寺の北之山陽書幅の返向、題は登す  
此人並に傳すも山陽の書と多く異なり余の書は  
此人の如くも若干あり、只像故る余の題は  
このより教するふ、相来隨筆の稿を終りし  
午より午後五時頃一紙の預金引出す、杉浦四半  
子とて記録とぬめり、教は教部と定むるも、  
鍼療と云々、晩日海舟より來、皇軍南島に領の御  
外生つ、夜来のうらむ大は田中光顯伯の折去と伝ふ

二十九日



昨、朝来臨葉の原村を修む、町人石井安太郎より「来玉  
葉祝」の便人が敷葉原宿の伴誓母に物を頼む其の旨を  
酒舎にとりて午後酒に乘りて自家の鋤本敷母  
を出して送り、臨葉の材料若干を採出する、藤合別  
荘の村上より林橋一ツ取利未

三十。

昨、永井清の馬出湯の墨蹟を控す、現代新徳記  
に同じお仰出記の返答をとり、柏如亭の詩を抄す、  
石井安太郎の奉答、村崎清雄の来玉人妻化函

棟原製

礼に来り物を頼む、宣旨切大らり、就禱の挨拶  
状列、茂田貞敬、耳の香田半作の書を流し、所  
を移す、大江に東海、鐵齋を交く、海堂に来診

三十一日

昨、同友会協会の理々今の報告者来玉、十時外出、此  
二物を頼む、牛馬の調、物来玉の物、此の  
信を修む、四月五日早中の慰言分、内利の、内子、  
病の、其の、匡、茂田代、掛、清、夜、来、徹、雨



○四月

一〇

晴朝云絶暮の穉と終む、髪七脱す、今日午後田  
中光野家の生家式あり、難進を憚りし臨す  
焚香點禱臨式に易あり、夜分生田より長西の結  
幣式あり、祝を終り久席す、始竹に散すや、日未  
絶暮下の穉と終む。

二日

日

曇、飯塚屋次中孫満彦早大卒業書言来河、

榎原製

半日陰暮の穉と終む、夜未潤雨到る

三日

神武天皇祭

雨庭中の辛夷奪ひらく、毎日穉了、新暮の冊子  
録白く更しく、餘生難偶録の一冊ふと書き  
始む、病婦行に順境をんも、神災の録、喉の疾、唯も腸胃  
よく飲食無難也、予の近來運物も缺く、為め便秘、  
困り腸胃もよく、二月病臥以來、志意も先人  
十一の夜、胃の出る、日本物而、拍と難い、有るは、  
哺とせし、度、飯塚屋次中孫満彦早大卒業書言来河、



着の形迄を済む時と移すにアノ油練の事、  
紛濁中の北海道区別起るるを日如ソノ間ニ暫定協  
約成るの報あり。此より中山監取る。

四日

昨任多起りしと先月の定期預金振保に二十日分約  
千七百八十圓借入。先月五日分同牙一見起り高止  
に預け入る。税金三十百圓子。又什、陸軍の給  
と供の午後と到る。微雨あり。南谷東より地取  
味増一橋路より。花屋揖東(有恒)とと来也。

棟原製

夜未中夜十二

五日

昨夜の中二寸積雪。今朝微雪あり。雪は数  
米鉛管にねを懸ひ中央部は雪より貯蓄候  
若二十圓餘入充る。午後旋回と車  
す。日清生金と印課利に。夜未雨

六日

雨、地雪能消、雨未地雪の積も終る。度候の暇あり



其傳一と雖も其の言意而鈴木通一(道遠)  
の款面を持ち来り置定とせよ。松井正夫(来り)  
枝の酒をとり飲し、付のち右の世を其の  
酒をとりしむ。其時、おまの酒の味を  
出座の酒と余日、天寒く雨冷かしく  
云

七〇

天候寒し、余の遊筆とぬめりの中、  
報利をたどる。其の波音に寂然と  
坐す。

櫻原製

是は、望むに及ばず。松尾未だ  
上りの小舟をいり、午時、  
其の漸く、松尾未だ、  
松下英麿、其の時、  
利来、其の時、  
家とて、其の時、  
其の時、

八日

此の雨、其の時、  
其の時、







校正終了、校印願子来印、二巻及法、海島を  
表す、

十一日

清洲末中央公論社より利来の原形校正書を  
校合す、宇尾尾望(清洲)の果物と銘する増田  
乙四より来指、直島中大方一井、安家、海島  
を記す、社今教育場合の係籍、正島の貴友  
陸軍一の寄附と銘の誤りて之を、十一日市  
中、故業誌望の井、海島して物、吉田方よ  
り地名辞典才四冊(北回東回)利来、校後の部此

棟原製

巻にある、

十二日

清洲利来四甲、香山の公と銘して社今教育場合の字  
崎島書に投す、山の敷城の花作集出版する  
近隣文を草す、直島中大方と先人のを  
行録、文を終り、近刊一冊を定めて、市島  
乾三、お寛若を祈らぬ、校刊、午後出版、深  
川、乙、到り物、尾、法、海島、倉内と銘する



十三日

晴、直つ中大雨。海を舟す。市は乾三。春  
の、書屋骨董雜品。投書き。山田中尉の二本を  
投打す。十一時出。海濱名。伊勢舟。おと精ひ。公  
堂。晴し。ゆえ。舟。向。長。共。果。印。の。大。帝  
原。照。し。と。海。又。時。を。終。す。

十四日

晴、雜品現代の需め。う。海。一。本。を。舟。す。と。宮  
す。大。帝。原。照。し。と。海。又。時。を。終。す。株。式。合。社。と。記

株

今の。海。は。来。る。と。記。し。た。ま。と。記。し。た。り。て。先。友  
へ。と。千。エ。リ。ウ。フ。を。山。を。舟。す。と。記。し。た。り。て。満。り。  
晴。し。と。漸。々。と。氣。の。温。ま。る。と。春。氣。を。と。記。し。た。り。て。俾。服。  
一。枚。を。贈。し。夏。外。套。を。外。出。に。着。す。と。記。し。た。り。て。舟。中  
の。見。る。の。見。る。と。記。し。た。り。て。舟。中。の。見。る。と。記。し。た。り。て。



--	--	--	--	--	--	--	--	--	--



--	--	--	--	--	--	--	--	--	--



標原製



以下全て

白紙



